

目次

第32回研究発表大会のお知らせ	1p	第33回研究発表大会 アクセスマップ	7p
企画セッション (聴講無料)	1p	第33回研究発表大会 会場配置図	8p
大会優秀発表賞およびポスターセッション賞	5p	学会からのお知らせ	9p
機器展示	5p	学会後援行事等のお知らせ	9p
第33回研究発表大会 日程表	6p		

第33回研究発表大会のお知らせ

第33回地理情報システム学会学術研究発表大会を、京都大学宇治キャンパス(京都府宇治市)にて10月26日(土)・27日(日)に、対面のみで開催いたします。講演発表やポスター発表、シンポジウムやワークショップ、ハンズオンセッションなど多彩な企画に加え、懇親会もございますので、奮ってご参加下さい。

詳細は大会ホームページをご覧ください。大会開催まで変更の可能性がありますので、必ず最新の情報をご確認ください。

なお、平成27年度より、講演発表・ポスター発表の発表者には、測量CPD学習プログラムのポイントが付与されます。大会で発表した場合、(1)領収書は「GIS上級技術者」への申請にお使いいただけます。(2)「測量系CPD学習プログラム」への申請を希望する方は、大会後にメールで事務局へ「氏名」「発表番号」「発表タイトル」をご連絡下さい。

日程：2024年10月26日(土)・27日(日)
会場：京都大学宇治キャンパス(京都府宇治市)
大会 おうばくプラザ・宇治地区研究所本館・
総合研究実験1号棟・防災研究所連携研究棟
懇親会 おうばくプラザ2階 ハイブリッドスペース

大会参加費：

正会員または賛助会員	6,000円(早期登録* 4,000円)
学生会員	4,000円(早期登録* 3,000円)
非会員	8,000円(早期登録* 7,000円)
高校生以下、70歳以上	無料

(年齢を証明するものをご提出下さい)

企画セッションのみ 無料(申込は不要です)

懇親会費：

正会員または賛助会員	6,000円(早期登録* 5,000円)
学生会員	6,000円(早期登録* 4,000円)
非会員	7,000円(早期登録* 6,000円)

*早期登録は9月30日までの受付です。

※現地では受付しません。オンラインでお申し込みください。

詳しくは大会Webページをご覧ください。

(<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/gisa2024>)

◆企画セッション(聴講無料)◆ 10月26日(土)開催

◆シンポジウム◆

【令和6年能登半島地震への応援派遣におけるGIS利用の考察】

日時：10月26日(土)9:00-10:40
会場：会場A
企画：青木和人

2024年1月1日に発生した能登半島地震に係る住家被害認定調査のため、1月12日から千葉県と市町職員の応援派遣が行われました。震災時の被害状況調査は、内閣府の住家の被害認定調査、国土交通省の被災建築物応急危険度判定、被災宅地危険度判定など、現地踏査による被害状況調査がその目的に応じて用意されています。本セッションでは、被災住民の支援に直接繋がる罹災証明書の被害程度の判断基準となる、住家の被害認定調査におけるGISの活用状況について、震災から1~2ヶ月後の石川県珠洲市での事例について報告・考察します。

当日は応援派遣に参加した自治体職員とGISサービス提供ベンダーをお招きします。その上で、災害時のGIS利用の有用性と課題について、自治体応援派遣職員の視点での話題提供と、現場とGISに精通する自治体分科会ならではの議論を行い、災害支援の最前線に立つ自治体職員のGIS利用の在り方について検討します。

◆ワークショップ◆

【スマート・プランニングのための地理空間情報と全国擬似人流データの活用】

日時：10月26日(土)9:00-10:40 ワークショップ1
11:00-12:40 ワークショップ2
会場：会場B
企画：龐岩博

近年、少子高齢化や人口減少による人口構成の変化に伴い、より精緻な都市計画が求められています。そのため、人々の動きを詳細に把握し、都市計画を最適化することが重要です。しかし、個人情報保護の観点から大規模な人流データの公開には様々な制限があります。この問題を解決するために、実データの代わりに擬似データの作成と利用が注目されています。

私たちは「擬似人流」というプロジェクトを立ち上げ、実世界の人々の動きを再現することで、都市計画や交通計画など公益に役立つ基礎データを提供することを目指しています。本ワークショップでは、スマート・プランニングにおける地理空間情報と全国擬似人流データの活用方法について、最新の研究成果や実践例を紹介し、データ利活用のハンズオンセッション、また都市計画シミュレーションを実践し、擬似人流データの具体的な活用法を探ります。ディスカッションを通じて得られた知見を共有し、参加者間での意見交換を促進します。

研究者、実務者、学生など、都市計画やデータサイエンスに関心のある方々にとって、有益な内容となっています。スマート・プランニングの実現に向けた第一歩を、一緒に踏み出しましょう。

◆ハンズオン+シンポジウム◆

【GeoAI の最前線】

日 時：10月26日（土） 9:00-10:40
ハンズオン+シンポジウム 1
11:00-12:40
ハンズオン+シンポジウム 2
会 場：会場 F
企 画：巖網林

地理空間は人類生存の基盤で、知の源泉でもあります。GeoAI は空間情報に優れる GIS と知識処理に優れた AI を融合し、GIS に新しいパラダイムをもたらします。本セッションは GeoAI 分科会がこの一年に調査した内容を報告し、GeoAI の研究と実践を深化していく方向性を検討します。同時に昨年同様、ArcGIS と LLM-Geo のハンズオンも行い、GeoAI の可能性を体験する機会を提供します。

登壇予定者：慶應義塾大学環境情報学部 巖網林 教授、政策大学院大学 片山耕治 教授、株式会社パスコ技術研究センター 佐藤俊明 センター長/同 金森貴洋 研究員、ESRI Japan 株式会社先端技術開発グループ 高瀬啓司 課長、中央大学研究開発機構 大場章弘 助教

◆シンポジウム◆

【第2回 SIG-GIS シンポジウム — 標準と人材】

日 時：10月26日（土） 11:00-12:40
会 場：会場 A
企 画：太田守重

ISO/TC211 における地理空間情報分野の国際標準化は今年で 30 周年を迎え、陸域、海域、空域、交通、BIM/CIM、そして都市計画等、様々な分野で利用が拡大するとともに、FIG、ISO/TC204、OGC、EU の INSPIRE、そして OSGeo など、様々な国際組織が、応用分野の標準の開発や活用を進めています。

その影響は我が国にも及ぶと共に、日本から国際標準を世界に提案する試みも見られます。

地理情報標準は、空間データやサービスの品質管理に役立ち、相互運用性を高め、情報共有が促進され、多重投資の回避に役立ち、世界的な一体感と信頼感を築くといわれています。一方で、その整備や活用に携わる人材の不足が懸念されています。このシンポジウムでは、国際標準化、国際協力、そして人材育成に関わる研究者や実務者をお招きして、地理情報分野の「標準と人材」をテーマとした議論を通じて、標準化の今後の方向性と人材確保の方策について議論します。

◆シンポジウム◆

【2024 年度 GIS 教育実践アワード表彰式および表彰事例報告会（教育委員会）】

日 時：10月26日（土） 14:00-15:40
会 場：会場 A
企 画：塚本章宏

本セッションでは、2024 年度「GIS 教育実践アワード」の表彰式と、表彰者による事例報告会を行います。

「GIS 教育実践アワード」は、教育現場で GIS を活用する先進的な事例を表彰するとともに、表彰者による事例報告会を行い、教材開発に関するノウハウや解決すべき課題などの情報を交換する機会としています。

GIS の活用能力と習得の必要性は、日本学術会議の提言や学習指導要領、特に高等学校の必修科目「地理総合」において、明確に位置付けられています。そうしたなかで、本事業は、GIS の普及と展開を促進し、より効果的な GIS 教育の実践を支援することを目的としています。

◆シンポジウム◆

【学生フリーテーマ発表会（若手分科会）】

日 時：10月26日（土） 14:00-15:40
会 場：会場 B
企 画：関口達也

若手分科会では、研究発表大会が学生のみなさんにとっても成果発表の場および研究交流の場になってほしいと考え、本年度も「学生フリーテーマ発表会」を企画します。今年度は、1つのセッションの中で研究発表セッションと交流セッションを同時開催します。前者は一定の研究成果が出ている学生さんを対象にした、通常の口頭発表に近い形で行うものです。優秀な研究発表や将来性のある研究発表は、それぞれ分科会として表彰予定です。後者は構想段階での研究発表、講義やゼミなどでの取り組みを紹介することを推奨するもので、発表時間よりも質疑応答や意見交換の時間を長くとりまします。発表題目や任意で提出された要旨などを含めた詳細は若手分科会のサイトでご案内しています。

<https://sites.google.com/view/gisa-wakate/>

◆シンポジウム◆

【ジオテクノロジーズの人流データを活用した研究】

日 時：10月26日（土）14:00-15:40
会 場：会場F
企 画：中野裕貴

ジオテクノロジーズが収集している人流データは、高頻度かつ高精度に取得を行っており、どのような施設をどのような経路で回ったのかを回遊分析したり、ウォーカビリティの分析を行うことができ、都市計画や観光政策、都市環境評価など多くの研究者から着目されています。またスマートフォンのアプリから歩数のデータも収集しており、この歩数データが市民の健康指標として活用できると健康系の研究にも活用されています。こちらのセッションでは人流データの紹介と活用されている事例を紹介させていただきます。

◆シンポジウム◆

【文化財情報と FOSS4G の活用（FOSS4G 分科会）】

日 時：10月26日（土）16:00-17:40
会 場：会場A
企 画：武内樹治・岩崎亘典

近年、文化財分野においてオープンソースの活用やデジタル・アーカイブやオープンデータ化が文化財研究機関や、大学、自治体、博物館等で進んでいる。また、国土情報や災害情報などさまざまなオープンデータとして公開されている地理空間情報と文化財情報を GIS 上で組み合わせた分析や取り組みも増えてきている。全国の文化財を集約した WebGIS の公開や、文化財防災・保護への活用、各自治体による遺跡地図や文化財地図の GIS 化など様々な取り組みがある。

本企画セッションでは、様々な FOSS4G にまつわる文化財の保護や活用、デジタル・アーカイブについて話題提供を行い、今後の文化財分野と FOSS4G の融合や可能性を議論する。

◆ワークショップ◆

【カードゲーム型教材「GIS カード」を使って GIS の基本を楽しく学ぶ（教育委員会）】

日 時：10月26日（土）16:00-17:40
会 場：会場B
企 画：塚本章宏

GIS は、地図情報を使って様々な分析を行うことができる便利なツールですが、いきなり GIS ソフトを使うのは難しく、挫折してしまう教員や生徒が多いことは課題とされてきました。

そこで、GIS カードとその教育プログラムの構築に取り組んでいる ESRI ジャパンおよび GIS カード作成チームと本学会の教育委員会による共同企画として、GIS カードを使って GIS の基礎を楽しく学ぶワークショップを開催します。

GIS カードは、地図情報が描かれたレイヤーカードを組み合わせ、地域課題の解決を目指す主題図を作成する過程が経験できる、アナログな GIS 教材です。まるでカードゲームのように遊びながら、GIS の基礎知識や空間思考力を身につけることができます。

GIS カードを取り入れた教育・授業プログラムを作り、広く GIS への興味を持ってもらえるように発展させていきたいと考えています。ぜひ、このワークショップで体験してみてください

◆ハンズオン◆

【ArcGIS を用いた人流データの可視化体験】

日 時：10月26日（土）16:00-17:40
会 場：会場F
企 画：中野裕貴

人流データに興味はあるけど、どのように扱ったらよいかわからない方に向けて、ジオテクノロジーズが収集した人流データを ESRI ジャパンが提供している ArcGIS 上に可視化する体験ができるハンズオンセッションを 2 社共同で実施します。ジオテクノロジーズの人流データがどのような特徴を持つデータなのか、また ESRI ジャパンの ArcGIS はどんな操作感なのかお試しできます。

◆企画セッション（聴講無料）◆

10月27日（日）開催

◆シンポジウム◆

【第19回マイクロジオデータ研究会「国土数値情報をはじめとするオープンなマイクロジオデータの活用最前線と今後の展望」】

日 時：10月27日（日）9:00-10:40 シンポジウム1
11:00-12:40 シンポジウム2

会 場：会場A
企 画：秋山祐樹

2011年に発足した本研究会は、マイクロジオデータ（MGD：位置情報や時間情報を持つ空間的に高精細なデータや統計の総称）の普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って来ました。MGDは既存の各種統計・空間データでは実現が困難であった、時空間的にきめ細やかな分析や計画支援等への利活用が期待されています。

今回のMGD研究会では、国土数値情報をはじめとするオープンなマイクロジオデータの最新の活用事例を産官学の有識者からご紹介頂きます。また、国土数値情報などのオープンなマイクロジオデータを産官学様々な場面でこれまで以上に幅広く活用していく上で、今、そしてこれから何に取り組むべきか、また何が課題なのか、などについて議論を深めたいと考えています。

◆開催校企画シンポジウム◆

【GISで見る能登半島地震】

日 時：10月27日（日）9:00-10:40

会 場：会場B
企 画：畑山満則

2024年1月1日16:10に令和6年能登半島地震が発生し、344名の死者・行方不明者（8月21日現在、関連死を含む）、12万棟を超える住家被害が報告されています。本特別セッションでは、地理空間情報を用いて地震、津波、土砂災害、災害対応などについて調査・分析結果を紹介し、地理空間情報を活用したハザード分析や災害対応について議論します。

◆ハンズオン◆

【Metashapeを使った国土地理院空中写真からのDSM・3Dモデル生成】

日 時：10月27日（日）11:00-12:40

会 場：会場B
企 画：桐村喬

国土地理院が公開している地図・空中写真閲覧サービスからは、様々な時代の日本の国土の姿が写された空中写真をダウンロードできます。これらの空中写真データを活用して、DSMや3Dモデルなどを生成することで、PLATEAUでは把握できない、過去の時代の3次元的な解析や可視化が可能になります（神戸の事例 <https://arcg.is/1zKenC4>）。

本セッションでは、フォトグラメトリソフトのMetashapeを用いて、400dpiの空中写真データから、位置精度の高いDSM、オルソ写真、3Dモデルなどを生成する作業手順の解説を行い

ます。また、情報共有・情報交換も行いたいと考えています。Metashapeをまだ十分に使っていないという方も、ぜひご参加ください。人数把握のため、

<https://forms.gle/CNzJ61DNmiRuyXym7> より、なるべく事前にお申し込みください。

◆シンポジウム◆

【デジタルアース研究現状と将来展望（2024）】

日 時：10月27日（日）14:00-15:40

会 場：会場A
企 画：福井弘道

中部大学国際GISセンターは、2014年に文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定を受け「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として、GISをはじめ、情報科学、リモートセンシング、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を推進してきました。さらに環境、災害、感染症等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献することを目的としています。本セッションでは、2023年度の拠点の共同研究成果の報告と、関連研究者によるパネル・ディスカッションを行い、デジタルアース研究分野と問題複合体への学術によるアプローチについて展望します。

◆ハンズオン◆

【ノーコードでWebアプリを使ってみよう！】

日 時：10月27日（日）14:00-15:40

会 場：会場B
企 画：土田雅代

ArcGIS Experience Builderを使用すると、ノーコードで柔軟にWebアプリを構築できます。豊富なウィジェットから必要なツールを選択したり、独自のテンプレートをデザインしたり、2Dコンテンツや3Dコンテンツを操作することも可能です。また、デバイスごとにレイアウトを設定することで、モバイルユーザーのユーザビリティを向上させることもできます。ArcGIS OnlineのアプリであるArcGIS Experience Builderを使うことで、地図表現やグラフが連動し、2Dや3Dのコンテンツもより視覚的にわかりやすく表現できます。今回は、データの可視化方法を議論しながら、ArcGIS Experience Builderで構築されたアプリは、あらゆる業界・業種の地理空間に関わる業務を効率化できます。必要なライセンスはESRIジャパンにて準備しますので、当日はPCをご持参ください。

◆大会優秀発表賞およびポスターセッション賞◆

【第20回大会優秀発表賞】

対象者は、本学会の学生会員（年会費完納者）で、修士号未修得の、口頭発表発表者に限られます。研究・論文・発表の内容が優れた発表者を司会者や審査員が推薦し、学会賞委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。受賞者は閉会式で発表します。

受賞者には賞状を後日送付し、ニューズレター132号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol. 32, No. 2に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11月15日（金）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

【第13回ポスターセッション賞】

ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。投票方法は、参加登録者に別途ご案内いたします。なお、今回、ポスターセッションは2日に分けて開催し、指定された1セッションで発表していただきます。受賞者は閉会式で発表します。

受賞者には賞状を後日送付し、ニューズレター132号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol. 32, No. 2に発表要旨を掲載（モノクロ印刷のみ）します。受賞者は11月15日（金）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

◆機器展示◆

■株式会社古今書院

GIS書籍の発行点数ナンバー1の出版社です。新刊に『基礎から学ぶGIS・地理空間情報』『ArcGIS Proではじめる地理空間データ分析』『図解！触って学ぶArcGIS Pro』。『地理情報科学』などGISの基本図書、「ArcGIS」「QGIS」「MANDARA」など人気のGISソフトの活用マニュアルなど、GISビギナーからミドルユーザまで利用目的に応じた関連書籍を展示し、すべて15%引で販売します。【出版企画】のご相談も大歓迎です！

■ESRIジャパン株式会社

ArcGIS/ESRIジャパンデータコンテンツ

教育機関、自治体、ビジネスなど幅広い分野でのArcGISの活用事例や新機能を実際のデモを通してご紹介します。

また今秋リリース予定のESRIジャパンデータコンテンツ2025の詳細もご案内します。

GIS教育や研究支援に役立つツールやリソースについて幅広くご紹介しますので是非お立ち寄りください。

第33回研究発表大会 日程表

- ※ 企画セッション以外の、口頭発表およびポスター発表セッションへの参加には、参加登録と大会参加費が必要です。
- ※ 企画セッションの参加は、企画によって登録が必要なものがあります（参加費は不要）。
- ※ 「赤色」はシンポジウムやワークショップの企画セッションです。
- ※ 「紫色」はハンズオンの企画セッションです。
- ※ 「オレンジ」はポスター発表セッションです。
- ※ 「緑色」は口頭発表セッションです。
- ※ 開始時間等が変更になる場合もあります。最新情報は必ず大会webページでご確認ください。

10/26(土)	きはだホール 会場A	ハイブリッド スペース	セミナー室1+2 会場B	セミナー室4+5 会場C	s-519D 防災研究所 大会議室 会場D	HW401 遠隔会議室 会場E	301大セミナー室 会場F
第1セッション 9:00-10:40	A1 (シンポジウム) 令和6年能登半島地震への応援派遣におけるGIS利用の考察 企画者:青木 和人		B1 (ワークショップ) スマート・プランニングのための地理空間情報と全国疑似人流データの利活用1 企画者: 龐 岩博	C1 居住	D1 データ取得	E1 安心・安全・犯罪	F1 (ハンズオン+シンポジウム) GeoAIの最前線1 企画者: 殿網林
第2セッション 11:00-12:40	A2 (シンポジウム) 第2回SIG-GISシンポジウム —— 標準と人材 企画者: 太田守重		B2 (ワークショップ) スマート・プランニングのための地理空間情報と全国疑似人流データの利活用2 企画者: 龐 岩博	C2 空間解析	D2 経済	E2 景観	F2 (ハンズオン+シンポジウム) GeoAIの最前線2 企画者: 殿網林
ポスターセッション1 13:00-13:50		P1 ポスターコアタイム (前半)					
第3セッション 14:00-15:40	A3 (シンポジウム) 2024年度GIS教育実践アワード 表彰式および表彰事例報告会 企画者: 塚本章宏		B3 (シンポジウム) 学生フリーテーマ発表会 企画者: 関口達也	C3 地域分析1	D3 防災1	E3 移動・交通1	F3 (シンポジウム) ジオテクノロジーの人流データを活用した研究 企画者: 中野裕貴
第4セッション 16:00-17:40	A4 (シンポジウム) 文化財情報とFOSS4Gの活用 企画者: 武内樹治、岩崎亘典		B4 (ワークショップ) カードゲーム型教材「GISカード」を使ってGISの基本を楽しく学ぶ 企画者: 塚本章宏	C4 地域分析2	D4 防災2	E4 移動・交通2	F4 (ハンズオン) ArcGISを用いた人流データの可視化体験 企画者: 中野裕貴
18:00-19:30		懇親会					
10/27(日)	きはだホール 会場A	ハイブリッド スペース	セミナー室1+2 会場B	セミナー室4+5 会場C	s-519D 防災研究所 大会議室 会場D	HW401 遠隔会議室 会場E	301大セミナー室 会場F
第5セッション 9:00-10:40	A5 (シンポジウム) 第19回マイクロジオデータ研究会「国土数値情報をはじめとするオープンなマイクロジオデータの活用最前線と今後の展望」1 企画者: 秋山祐樹		B5 (開催校企画シンポジウム) GISで見る能登半島地震 企画者: 畑山満則	C5 3次元データ	D5 自然・環境	E5 移動・交通3	
第6セッション 11:00-12:40	A6 (シンポジウム) 第19回マイクロジオデータ研究会「国土数値情報をはじめとするオープンなマイクロジオデータの活用最前線と今後の展望」2 企画者: 秋山祐樹		B6 (ハンズオン) Metashapeを使った国土地理院空中写真からのDSM・3Dモデル生成 企画者: 桐村 喬	C6 GISの可能性	D6 防災3	E6 移動・交通4	
ポスターセッション2 13:00-13:50		P2 ポスターコアタイム (後半)					
第7セッション 14:00-15:40	A7 (シンポジウム) デジタルアース研究の現状と将来展望(2024) 企画者: 福井弘道		B7 (ハンズオン) ノーコードでWebアプリを使ってみよう! 企画者: 土田 雅代	C7 自治体	D7 防災4	E7 データベース	
16:00-16:20	閉会式						

第33回研究発表大会 アクセスマップ

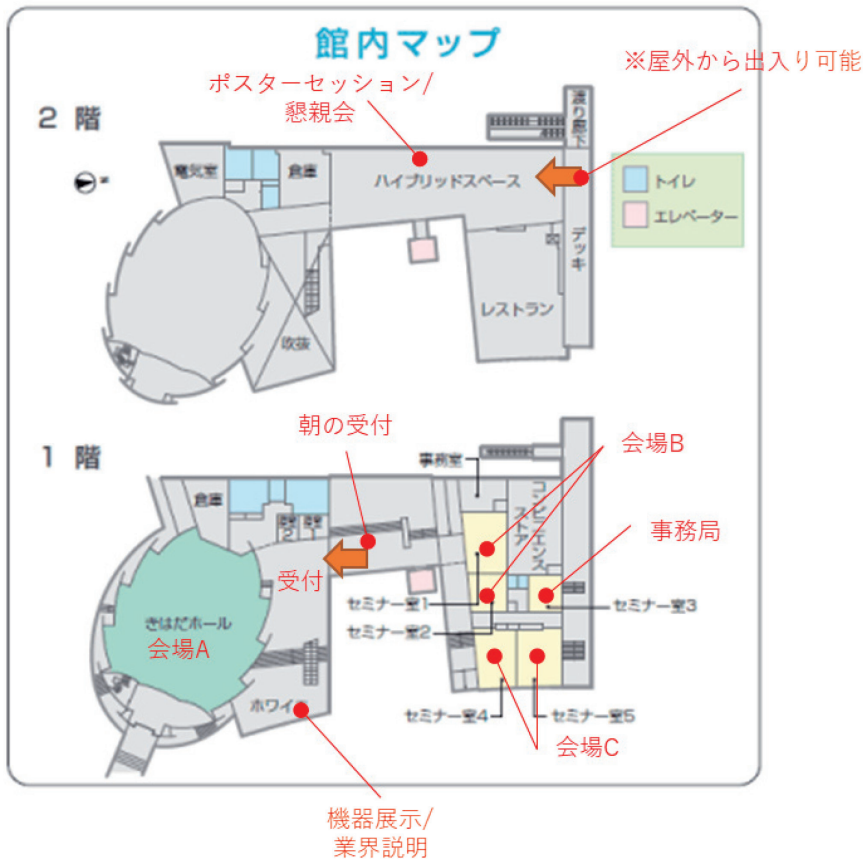


JR/京阪黄檗駅から宇治キャンパスまでのアクセス

第33回研究発表大会 会場配置図



宇治キャンパス内のマップ



おうばくプラザ内のマップ

【学会からのお知らせ】

■ 委員会、支部、分科会への ZOOM の権限貸与について

本学会では、学会活動を活発化するために、各委員会、支部、分科会の会議に限り、学会事務局の ZOOM の権限を貸与します。ご希望の方は、以下のルールに従ってお申込みください。

1. 事務局に原則として 1 週間前までに事前申請する会議の設定・開催は各グループの自由裁量とする。
2. ホストのグループを明示する。
3. 会議終了後には、開催記録（開催日時、参加者等）の基本情報を事務局に報告する。
4. 会議は必ずパスワード付きで開催し、第三者には明かさない

■ メールニュース受信についてお願い

BCC または配信先が多数のメールを受信できない設定の企業等団体の方で、学会メールニュースをお読みにになりたい方は、個人のメールアドレスを事務局までお知らせください。また、アドレスが変更になった場合は、会員ページよりご変更をお願いいたします。

■ メールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会では個人会員を対象に、メールニュースを配信しています。内容は学会からのお知らせ、関連イベント、公募情報が主ですが、掲載をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

なお、ニュースの配信は、毎月第 2・第 4 金曜日を目安にしています。

【学会後援行事等のお知らせ】

■ GIS Day in 東京 2024 （後援）

主催： 東京都立大学 都市環境学部
日時： 2024 年 12 月 14 日（土）
会場： 東京都立大学 南大沢キャンパス
詳しくは…

https://www.gisa-japan.org/topics_list/421.html

2024年8月21日現在の個人会員1,051名、賛助会員50社

賛助会員

朝日航洋(株), アジア航測(株), アドソル日進(株), (株)インフォマティクス, ESRI ジャパン(株), NEC ソリューションイノベータ(株), 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術(株), 大阪土地家屋調査士会, (株)かんこう, 関東中部 G 空間情報技術研究会, (財)岐阜県建設研究センター, 九州 GIS 技術研究会, 近畿北陸 G 空間情報技術研究会, (株)こうそく, 国際航業(株), 国土情報開発(株), (株)古今書院, GIS 支援センター, ジェイアール西日本コンサルタンツ(株), (株)ジオテクノ関西, (株)ジオテクノロジーズ, (株)ゼンリン, 中四国 G 空間情報技術研究会, デジタル北海道研究会, 東北 G 空間情報技術研究会, (株)ドーン, 長野県 G 空間情報技術協会, にいがた GIS 協議会, 日本工営都市空間(株), 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパーマップ(株), (財)日本測量調査技術協会, (財)日本地図センター, (一財)日本デジタル道路地図協会, パシフィックコンサルタンツ(株), (株)パスコ, 北海道 G 空間情報技術研究会, (株)マップクエスト, (株)マップル, (株)松本コンサルタント, 三菱電機(株), (財)リモート・センシング技術センター, 経済産業省特許庁, 国土交通省国土地理院, 国土交通省不動産・建設経済局地理空間情報課, 総務省統計局統計研究研修所, (独)統計センター, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

地方支部の連絡先一覧

<p><北海道支部> 支部長：株式会社ドーコン 三好達也 連絡先：NPO 法人 Digital 北海道研究会 (内) Tel: 011-299-8104, E-mail: gisahokkaido@dghok.com</p> <p><東北支部> 支部長：東北大学 井上亮 Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@tohoku.ac.jp</p> <p><中部支部> 支部長：中部大学 福井弘道 連絡先：杉田暁 (中部大学) Tel: 0568-51-9894, E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp</p> <p><関西支部> 支部長：大阪工業大学 吉川眞 連絡先：田中一成 (大阪工業大学) Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp</p>	<p><中国支部> 支部長：広島修道大学 川瀬正樹 Tel: 082-830-1210, E-mail: kawase@shudo-u.ac.jp</p> <p><四国支部> 支部長：徳島大学 渡辺公次郎 E-mail: kojiro@tokushima-u.ac.jp</p> <p><九州支部> 支部長：九州大学 三谷泰浩 Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp</p> <p><沖縄支部> 支部長：沖縄国際大学 崎浜靖 E-mail: sakiham@okiu.ac.jp 連絡先：澤岬直彦 (NPO 法人沖縄地理情報システム協議会) Tel: 098-863-7528, E-mail: takushi7015keisayasaki@gmail.com</p>
--	---

学会分科会連絡先一覧

<p>■自治体：小泉和久 (千葉県浦安市) 事務局：青木和人 (あおきGIS・オープンデータ研究所) Tel: 050-5850-3290 E-mail: kazu013057@gmail.com</p> <p>■ビジネス：高阪宏行 (地理情報技術研究所) Tel: 03-5379-5601 E-mail: info@georetail.tokyo</p> <p>■防災GIS：畑山満則 (京都大学防災研究所) Tel: 0774-38-4333 E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp</p> <p>■地図・空間表現：若林芳樹 (東京都立大学) Tel: 042-677-2601 E-mail: wakaba@tmu.ac.jp</p>	<p>■FOSS4G: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学) 連絡先：嘉山陽一 (朝日航洋(株)) Tel: 049-244-4032 E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp</p> <p>■若手分科会：関口達也 (京都府立大学) Tel: 075-703-5428 E-mail: ta-sekiguchi@kpu.ac.jp</p> <p>■GeoAI：巖網林 (慶應義塾大学) Tel: 0466-49-3453 E-mail: yan@sfc.keio.ac.jp</p> <p>■地理情報標準調査会：村上広史 (青山学院大学) 事務局長：太田守重 (国際航業株式会社) Tel: 03-5656-8685 E-mail: morishige_ota@kk-grp.jp</p>
--	---

■編集後記■
今号のニューズレターは、第33回の研究発表大会号です。今年の大会は、京都府宇治市の京都大学宇治キャンパスで開催されます。10月末の京都は、紅葉のはしりの時期ですね。紅葉に映える平等院はきっと素晴らしい眺めでしょう。また、大会の前の10月22日(月)には平安神宮で時代祭が開催されます。ご都合つく向きは、少し早乗りして観覧に行くのもよいですね。
開催ご準備に携わられている皆さまに深謝申し上げつつ、参加を楽しみにしています。
(中部大学 杉田暁)

**地理情報システム学会ニューズレター
第131号 ●発行日2024年9月26日**

■編集・発行
一般社団法人 地理情報システム学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル (株) 毎日学術フォーラム内
TEL: 03-6267-4550 / FAX: 03-6267-4555
E-mail: maf-gisa@mynavi.jp
URL: <https://www.gisa-japan.org/>